

WHAT IS AIJ?

これから活躍してゆく若い皆さんへ

衣食住という人間の営みの根幹に直結する建築は、人と生活に関わる社会からの要請に的確に応えることを使命とする、大切な学問・実践領域です。建築は、美しく心地よい家や町をデザインする建築意匠や建築・都市計画、安全で安心な空間を確保する建築構造・材料、快適な住・都市空間を提供する建築設備・環境を筆頭に、さまざまな分野に展開しています。また、これら多分野に縦割りではなく包括的に取り組むことが建築の特徴です。要するに、建築は、人類の営みに大きな貢献を果たすことができる「やりがいのある分野」であり、また皆さんもつと多様な興味に柔軟に応えることができる「やって楽しい分野」なのです。

日本建築学会は、実務者、研究者、行政者、大学院生を始めとする、建築に関わる多様な人材が集う場で、現在約34,000人の会員から構成されています。日本建築学会は、建築に関わる情報の提供と交換を事業の中核とし、建築の最近動向を論じる雑誌の発行、建築の研究や技術開発に関する論文誌の発行、会員相互が発表し研鑽しあう発表会の実施、建築デザインや技術の先端を周知するための講習会やセミナーの提供等に勤めています。建築をめざす皆さん、建築をもっと知り、建築の多様性に触れ、そして自らの思いを伝える絶好の場を、建築学会は提供しています。

地球規模で見れば人口が増え経済活動の活性化に伴い多くの開発が進む一方で、わが国においては、成長型社会から成熟型社会へと大きな転換期を迎えるという状況下、私達は、人類の持続的発展をこれからどう維持するかという究極の問題に向き合わなければなりません。人類の持続的発展には新しい生き方を思考することが求められますが、その過程において、人と生活に直結する建築が果たすべき役割には多大なものがあります。建築を基盤としてこれから活躍してゆく若い皆さんには、建築学会に入会し一層の切磋琢磨を通じて、これらの時代を引っ張っていただきたいと願っています。

第54代日本建築学会会長／京都大学防災研究所教授 中島正愛

良質な知識や情報を得たい

本会は、約130年にわたって蓄積してきた貴重な学術・技術の情報をふまえて、毎年150を超える講習会、シンポジウムなどの実施、あるいは毎年20点程の規準・仕様書等の出版物をとおして、建築学を構成する各専門分野の最新情報を提供しています。講習会やシンポジウムではそのテーマに関するテキストや資料集が発行されます。テキスト、資料集には参考文献が紹介しており、より深い知識や周辺の情報へアクセスできるように配慮されています。さらに図書館には、国内外の建築に関わる約20万冊の蔵書があり、会員は利用することができます。

このように本会は情報の宝庫となっており、ホームページをとおして会員限定の情報を提供しています。また、毎月発行の『建築雑誌』では、建築周辺を含む幅広い特集記事を掲載して、知的好奇心を刺激するような情報を提供しています。

[2015年『建築雑誌』特集例]

- ・日本のおひとりさま空間
- ・未来と生きる | 福島:復興の諸相
- ・集合住宅の「普通の暮らし」
——アジア東部6都市の比較
- ・都市史から領域史へ | 空き家考
- ・メディア・コンテンツ化する建築
- ・住むことから制度を考える
- ・記憶のつなぎ方
- ・住むためのパブリックスペース
- ・生きるための家 I | 生きるための家 II

成果を発表したい

新しい発見や良い仕事をしたら、本会のさまざまな発表の場を活用してください。研究成果なら支部研究発表会・大会学術講演会・論文集、新しい技術を開発したら技術報告集、よい作品をつくったら大会建築デザイン発表会や作品選集に発表することができます。そのほか英文論文集という手段もあります。いずれも公開データベースに登録され、万人の知的共有財産となり建築の発展に寄与できます。また、新たに建築作品を対象とした「建築討論web」を創設しました。

設計や技術を競いたい

設計の論理性、社会性に重きをおいた課題による設計競技を、毎年、意匠系と技術系でそれぞれ実施しています。自分がどれほどの設計技量を持っているか、全国レベルで比較できる良い機会です。意匠系の設計競技は歴史も古く、多くの著名な建築家がこの設計競技の入選者として名を連ねています。技術系の設計競技では第一線の技術者・建築家がアイデアを競っています。

高い評価を得たい

自信のある業績を達成したときは、学会賞(論文、作品、技術、業績の各部門)、教育賞、著作賞、奨励賞(論文)、作品選奨、作品選集新人賞の各賞に応募することができます。また、学生には優秀卒業論文賞・優秀修士論文賞の顕彰事業があります。厳しい審査を経て優れた業績と認められれば、たいへんな誇りと名誉が得られます。

社会に貢献したい

キャリアを積んだ会員は、司法支援、住まい・まちづくり支援、子ども教育支援の各建築会議をとおして、自らの経験・知識・技術を直接社会に生かすことができます。

司法支援 建築会議	住まい・まちづくり支援 建築会議	子ども教育支援 建築会議
裁判所に対して調停委員や鑑定人を推薦しています。	市民や行政等に対する助言・情報提供等を通じて住まい・まちづくり活動を支援します。	小・中・高の学校等に子どもの住まい・まちづくり教育に関する支援を行います。

学校卒業	20歳代	若手	1級建築士等
実務期間	30歳代	中堅	レベルアップ(研修、自己研鑽、資格等)
	40歳代	シニア	
	50歳代		

60歳代-	ハイシニア	地域ボランティア等
-------	-------	-----------

社会貢献		
------	--	--

あなたのキャリア・デザイン
応援します!



日本建築学会がみなさんを応援します。
たとえば、こんなとき……



「建築雑誌」2016年1月号表紙



「日本建築学会賞」賞牌



日本建築学会論文集



日本建築学会技術報告集



日本建築学会作品選集

ARCHITECTURAL INSTITUTE OF JAPAN

日本建築学会 〒106-8414 東京都港区北青山2-20-20 Tel.03-3256-2051 Fax.03-3246-2058

http://www.aij.or.jp

ARCHITECTURAL INSTITUTE OF JAPAN

ENTER

入会するには

インターネットから入会手続きができます。

<http://www.aij.or.jp/jpn/admission.htm>

QRコード

日本建築学会

QUESTIONNAIRE

あの人聞く日本建築学会
建築学会に入会していく、よかったですと思つたこと、感じたメリットなどをお聞かせください

ARCHITECTURAL
INSTITUTE OF
JAPAN

05



山田あすか

東京電機大学未来科学部建築学科准教授
Asuka Yamada

- 1 大学や年齢、専門や立場も違う先生方や実務の方とお知り合いになれたことです。わたしの場合は、主に委員会活動や学会大会での質疑応答などを通じてですが、所属する組織や年代の異なる方と知り合い、意見交換をしたり書籍の執筆をしたりといった経験を得られ、視野やネットワークの拡がりが本務にも役に立っています。
- 2 委員会活動や学会主催の見学会などを通して、普段はなかなか入りにくい医療・福祉施設の事例見学、調査などもさせていただいている。こうした中で建築業界以外の様々な方とのコネクションもできます。学会の名前をお借りしての訪問や調査ですので居住まいを正さねばという思いがきちんと仕事をさせてくれます。
- 3 学会や学会内の委員会が主催する様々なシンポジウムや研究会に参加させていただき、特定のテーマでの深い議論や最先端の動向、将来展望などを伺う機会があり、大変良い勉強になっています。研究者や多方面の実践者、行政関係の方など幅広い情報を得る機会があります。建築雑誌も同様の情報修得機会です。
- 4 論文誌、学術講演大会梗概集は、個々の論文を拝読して知や経験を共有させていただく手段のみならず、建築業界/学術分野全体としての興味関心の所在や、研究者・企業の興味関心の動向を知るツールになっています。このような情報が、研究やプロジェクトのパートナーを見つけるきっかけになっています。
- 5 大学や院などを卒業後、社会に出てから勤め上げる年数は学校で学んだよりもはるかに長い期間です。その時間の中で、知識も技術も積み上がり続けますし、学校で教わることも(本質は不变ですが)常に刷新されています。学会での活動は、時代遅れの技術者や学者にならないための、リカレント教育の機会になっています。

06



大野博史

有限会社オーノJAPAN一級建築士事務所代表
Hirofumi Ohno

- 1 構造設計者として社会貢献をすることを意識して仕事をしていますが、個人としての活動は時として社会全体への発言力が乏しく感じことがあります。学会には社会全体へ働きかけることが可能な活動の場が用意されています。学会の活動に参加することで、社会活動の幅を広げられると思いませんか?
- 2 学会には多くの研究論文が集められています。論文には連綿と続く研究テーマがあり、その歴史と経験にもとづく知の積み重ねは奥行きを感じさせるものです。その深度とは対照的に月一度送られてくる論文集には新鮮な論文が集められています。自分の設計を客観的に見直すためにも、深度と鮮度の論文に触れるということが素敵なことだと思いますか?
- 3 日本の建築の歴史を語り続ける学術的母体があるということが、直接的な恩恵を受けることはなくても喜ばしいことだと思いますか?

07



野澤千絵

東洋大学理工学部建築学科准教授
Chie Nozawa

- 1 建築学会には、建築の歴史・意匠・環境工学・構造といった建築学の代表的な分野だけでなく、都市計画・農村計画・災害・建築法制度・建築教育など、「建築」に関わる幅広い多様な分野の研究委員会が設置されています。建築学会に入会することで、こうした委員会への参加の機会が得られるとともに、最新の研究成果を、建築学会大会の研究協議会やバーネルディスカッションで得ることができます。
- 2 建築学会には、研究者だけでなく、実務を行っている民間会社等の学会員も多いため、研究と実務の観点から総合的な議論が行えます。特に、学会から毎月送られてくる機関誌「建築雑誌」は、実務と研究の相互の観点が練りこまれたテーマや内容となっており、建築界の幅広い情報や視点が得られます。
- 3 建築学会では、東日本大震災復旧復興地域まちづくりのための提言や、取り壊されそうになっている歴史的建造物の保存活用に関する要望書などのとりまとめの際、建築学会から会員にメールでその内容が周知されるだけでなく、会員からも広く意見を受け付けており、一会员であっても、意見を寄せることができるようになっています。一般的には、一個人では真剣に受けとめられない提言や要望であっても、建築学会という組織だからこそ広く世間に受けとめられ、発信できる点がメリットを感じています。

01



平塚桂

建築ライター/ぼむ企画
Katsura Hiratsuka

- 1 会員になると建築関係の蔵書が豊富な図書館が使えるのは、大学などに所属しておらず公立の図書館しかつかない立場の私にとっては非常に便利で助かっています。
- 2 論文等のデータベースが使えること。「建築雑誌」や論文集の掲載論文など、CiNiiでは有料コンテンツになっているものも会員ならば閲覧できるので、メリットをかなり感じます。
- 3 入会のメリットとは少し違うかもしれません、委員会活動などを通じ、さまざまな専門分野の方と知り合い、建築学の幅広さを学ぶことができたのは収穫です。

02



南後由和

社会学者・明治大学情報コミュニケーション学部専任講師
Yoshikazu Nango

- 1 学会大会はもちろん、講演会、ワークショップ、展覧会など、多種多様なイベントが開催されていることです。各調査研究委員会を含め、これほど活発に活動している学会は日本でも珍しいでしょう。貴重書や雑誌のバックナンバーなども揃う日本建築学会図書館を利用できるメリットも大きいです。日本建築学会への入会は、日本の建築学の知的インフラに接続する権利を手に入れることを意味します。
- 2 日本建築学会は、日本最大級の会員数を誇る学会で、大学・設計事務所・企業・官公庁など、様々な職種の人たちが所属するネットワークのハブです。私の専門が社会学であるように、人文科学・社会科学・自然科学など、様々な分野の人たちと協働することができます。
- 3 第一線で活躍する人たちが、建築を取り巻く現在の諸問題を多角的に論じる『建築雑誌』が、毎月送られてくることです。『建築雑誌』は買うと1冊1,300円するのに対して、年会費は12冊の購読料込みで12,000円(準会員だと半額)。社会学系の学会だと、会誌は年1冊~4冊程度。いかに日本建築学会は良心的かがわかります。

03



羽鳥達也

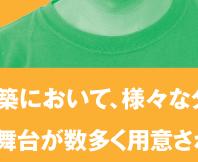
株式会社日建設計 設計部主管
Tatsuya Hatori

- 1 街で販売されている建築専門誌ではまず取り上げられないであろうコアな情報が毎月配達される「建築雑誌」から得ることが出来ます。この誌面自体が、編集委員や多様な分野で活躍する方々のボランティアに近い働きにより成り立っており、営利目的の媒体では得られない、多種多様な活動、情報を知る事ができます。
- 2 さらに幅広いカテゴリー、幅広い世代、各々の地域の取り組みも知る事ができ、建築に関する知の関係性の大きさ、複雑さが実感出来るとともに、その月のテーマに沿ってまとめられ、それぞれの概要を知ることが出来るので、叢書としてはとても便利。自分の専門分野に没頭していると得られない情報が手軽に得られます。

- 3 場合によってはそういう研究会、委員会活動に直接参加することもできます。本当に生きた情報や知恵は、媒体でなく人に帰属しているので、興味があることのトップランナーに直接関わる機会が得られるることは貴重だと思います。

- 4 個人事務所や組織事務所、ゼネコン設計部など業務のカテゴリー、建築物の用途を問わず、全国の数多くの建築が紹介される「作品選集」も面白いです。雑誌などでは編集の文脈によってそれぞれの建築の位置づけがページ数、順序によって示唆されてしまいますが、そういう色がなくほぼカタログ化されているので、それぞれのインテリジェンスを率直に見て取ることが出来ます。

04



西村浩

ワークヴィジョンズ代表取締役
Hiroshi Nishimura

- 1 統合芸術といわれる建築において、様々な分野の専門家が共に参加する舞台が数多く用意されている建築学会の役割は重要です。学会の催し等に積極的に参加して、多くの専門家と交流を深めることで、建築に関する幅広い知識を得ることができます。
- 2 建築学会には、学会発表された学術論文や建築関連の書籍をはじめ、これまでに発表された建築作品や歴史的建造物に関するデータなど、膨大な情報のストックがあります。研究や実務において、困ったときに役に立つ情報が必ず見つかる場所です。
- 3 建築学会は、その時々の建築界のトピックスを敏感に拾い上げ、それに対する見解や要望などを発することで、建築界をリードしていく組織だと思います。定期的に発行される学会誌等で、最新の動向を常に知ることができることは、学会の大きなメリットの一つだと思います。

2016年度
新規会員
募集中!

【日本建築学会とは】

日本建築学会は、会員相互の協力によって、建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかり、もって社会に貢献することを目的とする学術団体です。1886年(明治19年)に創立されて以来今日にいたるまで、わが国建築界においてつねに主導的な役割をはたしてきました。

現在、会員は3万4千名余にのぼり、会員の所属は研究教育機関、総合建設業・設計事務所をはじめ、官公庁・公社公団・建築材料・機器メーカー・コンサルタント・学生など多岐にわたっています。

本会は、その目的を達成するため、調査研究の振興、情報の発信と収集、教育と建築文化の振興・業績の表彰、国際交流・提言・要望などの事業を幅広く実施しています。また、全国に9つの支部と36の支所を設けて、それぞれの地域に即した活動を展開しています。

contents

QUESTIONNAIRE | あの人聞く日本建築学会

建築学会に

入会していく、よかったですと思つたこと、感じたメリットなどをお聞かせください

01_平塚桂 | Katsura Hiratsuka

02_南後由和 | Yoshikazu Nango

03_羽鳥達也 | Tatsuya Hatori

04_西村浩 | Hiroshi Nishimura

05_山田あすか | Asuka Yamada

06_大野博史 | Hirofumi Ohno

07_野澤千絵 | Chie Nozawa

発行日:
2016年3月20日

発行所:
日本建築学会

編集:
会員委員会 入会パンフレット作成WG

西村浩
田中元子

デザイン:
刈谷悠三/neucitora

印刷製本:
昭和情報プロセス

Printed in Japan
©Architectural Institute of Japan

一般社団法人 日本建築学会

日本建築学会

[総務グループ]

〒108-8414 東京都港区芝5-26-20

Tel: 03-3456-2055 | Fax: 03-3456-2058

kain@aij.or.jp

AIJ